

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立熊谷高等学校 定時制課程)

目指す学校像	自ら考え、判断し、目標に向かい着実に努力するとともに、他者への思いやりの心を持った心豊かな生徒を育てる学校
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 わかる授業に徹し、基礎学力の充実を図る。 2 生徒理解を深め、学校生活への適応指導を充実する。 3 積極的な情報発信、外部機関との連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。 4 安全・安心な学校づくりに努める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	10名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間の学力差が大きく、基礎学力が身につけていない生徒への指導が中心となり、学校全体の学力を伸ばせていない。 進級・卒業に必要な最低限の努力にとどめてしまい、成長への意欲が欠けている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業の理解度を高めるとともに、自ら学ぶ態度を身につけさせる。 進路指導を充実させ、生徒のキャリア意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①授業力向上の研修・研究を行い、ICT機器利用やアクティブラーニングを取り入れた授業を実践する。 ②生徒の進路目標を明確にさせ、その実現に向けて個別指導を行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎学力テストの達成率が上がっているか。学年末の欠点保有者は減少したか。 ②卒業学年の生徒の進路達成率は100%であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ALの手法を取り入れた授業を学校全体で30回以上実施。 ICT機器を授業で継続的に使用(英・理・社) 基礎学力テスト(数学)は昨年度より向上した。 進路達成率81.3%(3月10日現在) 	B	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習歴を持つ入学生者に対し、身に付けさせたい基礎学力をどのように設定するか。 「学びの基礎診断」を学力向上にどのように繋げていくか。 進路面談を定期的実施する。
2	<ul style="list-style-type: none"> 発達段階での困難を抱え、日々の生活に不安やストレスを感じている生徒が多くいる。 基本的な生活習慣や規範意識が身につけておらず、遅刻・欠席が多い。また、学校や集団への帰属意識が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> 困難に寄り添い必要な支援を行うとともに、集団の中の振舞を身につけさせる。 学校行事を通じて、学校への帰属意識を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①担任との面談を充実させ、外部機関との連携によって生徒を多面的に理解し、適切な指導を行う。 ②生活習慣については、保護者と連携して適切な指導を行う一方、学校行事等主体的に参加する姿勢を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①定時制高校への支援事業を有効に活用し、生徒の中退防止につなげることができたか。 ②欠席や遅刻が減ったか。生徒の学校行事の出席率が80%以上であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> SCやサポステの面談者が増え、中途退学者も減少している。 欠席数は微増(+26)、遅刻数は大幅に改善(-313)。 生徒会中心に計画を立てた遠足の参加者は増えたが、目標の80%には到らなかった(63%)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 面談の実施により生徒の困りごとを早期に把握し、必要に応じて外部機関へ接続する。 保護者と連携を強めることで、生徒の生活習慣を改善させ、学校への帰属意識を高める。
3	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事への保護者等の参加が少なく、本校の取り組みが十分理解されていない。 入学希望者は増えつつあるが、受験生や保護者、中学校の進路指導担当者等に、定時制の教育内容や本校のよさが十分に伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校教育への参加を促す。 本校の教育への理解と支援を増やし、「入りたい学校」として受験生に選ばれるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校行事や公開授業への保護者の参加を呼び掛け、来校者を増やす。 ②定時制ホームページを充実させ、本校の教育内容を伝えるとともに、学校説明会を開催する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校行事への保護者参加率は40%以上であるか。 ②定時制ホームページの情報は常に最新であるか。学校説明会の実施が志願者の増加につながったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業・行事の回数を増やし、保護者の参加を呼びかけた。参加者は微増したが、目標の40%には到らなかった(37%)。 給食や熊定BLOGを中心に200回以上更新。生徒募集のページを設置し、説明会の申込も行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への通知が、殆ど届かない生徒がいる。 メール配信など、保護者に漏れなく連絡が伝わるシステムの研究。 学校説明会の時期や内容について検討する。
4	<ul style="list-style-type: none"> 登下校中の交通事故の報告が数件あったことから、自転車・自動二輪使用者の安全指導が求められる。 施設・設備の安全維持とともに、自校給食実施校として、衛生面での安全・安心の確保を継続的に行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全指導を充実させ、登下校中の交通事故をなくす。 安全、安心な学校生活を送るための設備・給食点検の精度を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①自転車運転のマナー指導を継続的に行うとともに、自動二輪車・自動車使用者のルールを整備する。 ②巡回による設備点検を日常的に行い、給食点検や検食を確実に実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①生徒が登下校において交通ルールを順守できているか。 ②HR教室や使用教室に危険な場所はないか。速やかに改善したか。給食に異物混入はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> バイク通学の申請及び許可について校内規則を見直した。 交通安全指導を県警察署と連携して実施。 登下校中の事故は減少、給食の異物混入はなかった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 自転車通学者への傷害保険の加入を徹底させる。 バイク・自動車通学者の安全指導の充実を図る。 地震や大雨等の災害に備えた防災計画の見直しを図る。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年 2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 授業では、先生方がそれぞれの特色を出しながら丁寧に指導を行っている。ICTの活用など、授業が進歩していると感じられる。 e-ポートフォリオの利用など、生徒の学習活動を総合的に評価するシステムの構築を。 	
<ul style="list-style-type: none"> スマートフォンの使用について、教員の指導により、授業中にいじる生徒はいなくなったのはよい。一方で、授業中の積極的な活用も検討してみてもどうか。 先生方やスクールカウンセラーの細やかな指導により、生徒の生活態度が変わってきたと思う。 	
<ul style="list-style-type: none"> 給食や学校行事など、アピールポイントは多い。生徒募集が課題であるが、必ずニーズはあるはず。ぜひ広報に力を入れて、定時制の認知度を上げてほしい。 部活動も夜遅くまで頑張っている。課外活動での結果も出している。 	
<ul style="list-style-type: none"> バイクの「3ない運動」の見直しにより、学校での原付・自動二輪の適切な指導・管理が急務である。校内でのルールづくりを進めてほしい。 学校給食優良校に選ばれたとのこと。今後も安全でおいしい給食をお願いします。 	